

玉城 朋果

TAMASHIRO Moka



Flower metamorphosis

インスタレーション、造花

Flower metamorphosis

作品の鑑賞者を作品の一部にしたい。それが私の制作の主幹だった。

私は美術作品は自己表現の一環にあるものだと考えている。ただ作り、ただ見てもらう。様々な制作を通して「本当にこれで良いのか？」という思いを持つようになった。そんな時にインスタレーション作品に触れ、この表現方法に無限の可能性を感じた。そして同時に、体験者全ての人に同じ反応を見せることにとても疑問を持った。もっと個人に目を向けた表現は出来ないのだろうか。そう考えた私は、大学院で「個人に焦点を当てたインスタレーション作品」について研究と制作を行ってきた。

この作品は、体験者の顔に花を咲かせて今までとは全く違う自分を発見してもらおうというもの。体験者の顔を作品の1部にする事で「自分」が作品になっていると体感してもらおうという狙いがある。体験者の顔は一人一人違うものだ。作品も体験者によって少しずつ違う表現を見せるだろう。これが「個人に目を向けたインスタレーション作品」となると考えている。そして作品自体をフォトスポットのようにすることで、写真として残して「自分が作品の1部になった」と感じて貰いたいと思っている。

花は「花開く」や「開花する」という言葉があるように、前向きな意味に使われることが多い。花がその場に少しあるだけで華やかになり、たくさんあれば非日常感を味わうことが出来る。美術作品に触れることは、ほとんどの人にとって非日常になるだろう。たくさんの花を使用したこの作品を体験し終えた後に思い出した時に、少しの華やかさを添えられるような作品になれば幸いだ。